科目名	法文化史Ｂ　　History of Law and Culture B						
科目担当者	柴田 博子　　SHIBATA Hiroko						
単位数	２	配当年次	２年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	国家・社会の秩序を維持するために定める法は、それぞれの社会の文化、すなわち価値観を反映し、それに支えられているものである。東アジア諸国における最初の成文法の制定は圧倒的な中国文化の影響下にあったが、その一方で日本では、独自の文化のもとに、輸入した中国法体系を組み替える動きもみられた。 中国において前近代の法体系の主軸を占めていたと考えられる律令法を中心に、法の思想とそれを支えた文化について、法家と儒家との関係、支配者の価値体系及び法との関係、宗教との関係などを検討する。さらに日本への伝播、律令法導入時の日本における組み替え、受容に際しての法解釈の動向などから、中国文化との差異を考える。						
授業の到達目標	①法と文化の歴史的関係を理解できる。 ②東アジア前近代の思想と法の継受の様相について学び、背景となる文化的差異と受容の影響を理解し、説明できる。						

授業計画・内容		
	1	法と文化の関わりについて
	2	日本律令制定史
	3	律令編さん者の特徴
	4	日本律令の母法
	5	日唐律の編成比較
	6	中国における国家の形成と法の整備
	7	儒家と法家
	8	秦の法律－雲夢秦簡を中心に―
	9	後漢の刑罰－洛陽刑徒磚から―
	10	十悪と八虐
	11	在地信仰・仏教と律令法との関係
	12	日本における法の根拠
	13	日唐令の編成比較
	14	律令法体系の後代への影響
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	課題図書を読み、レポートを作成する（30 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	毎回、ノートとプリントから授業内容の要点を整理し、不明な箇所を調べておく（毎週 2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	毎回のリアクションペーパーもしくは小テスト	60%	①、②
	学期中レポート	20%	①
	定期試験	20%	②

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	毎時、プリントを配付する。
参考文献	講義中に適宜指示する。
その他	